



先週末、関東地方に、平年より2週間以上遅い、梅雨入りが発表されました。梅雨の時期は、大雨による災害が発生しやすい時期ですが、梅雨明け後の盛夏期に必要な「水」を蓄える重要な時期でもあります。今年は、どんな梅雨になるのでしょうか？

子どもたちは、雨音に耳を傾けたり、屋根から落ちる雨を手に捕まえようとしたり、水たまりに入ってみたり、梅雨の晴れ間には、プール・水遊びを思いっきり楽しんでます。この季節ならではの遊びの中で、五感を使って感じ、ふしぎを見つけて、繰り返し試したり、探求したりしながら、たくさんの学びを得られればと思います。



6月号と7月号のきらりは、理事長より『保育の質』について、お伝えします！

GUESTに聞いてみよう♪ - Vol.2

- PART I - 『保育の質』って？

GUEST: 理事長 中山 昌樹 

保護者の皆さんの園に対する満足度は、それぞれ多様な見方があると思います。お子さんを預ける際の安心感、事務手続きの簡単さ、料金のことなど。

利便性、もありますね。でも利便性だと多くの場合、赤見という場所は家から遠くてマイナス点でしょうか。しかしそれにも関わらず、毎年たくさんのお子さんが入園してくださっています。感謝の気持ちでいっぱいです。私はその理由として『保育の質』というものがあると感じています。

少子化が進み本園では、ピーク時から約100人の園児が減りました。私たちはここ数年、このような世の中の変化に伴って『保育の質』について見直しを行ってきました。国の基準で先生の人数が定められていますが、それが十分に満たされている状況の中で、先生たちが、どのように役割分担をしていくのが課題です。

先生の人数が多い状況を、次世代の人材を育成するチャンスと捉え、引き続き、保育の見直しを行っていきます。

もちろん「未来からの留学生（子ども）とまちづくり」という理念は変わりません。そして乳幼児期の子どもにあった、やらされるのではなく自分からそのことに取組む保育（自分からやりたくなるような環境を先生たちが作ります）も、変わりません。

『保育の質』の維持・向上のため、すなわち皆さんの子どもたちの最善の利益のためには、持続可能な園の経営と運営が重要です。保護者の皆さんと情報を共有しながら進めていきたいと思っています。

園児減少に伴って収入が減った分、支出をどのように調整するか、職員配置の調整を行う一方で、通園バスの問題もあります。一部リスクの回避のために、送迎の外部委託をしておりますが、この委託費がばかになりません。経営を安定させ子どもたちにより良い保育を提供するためにも、何とかしなくてはならないと考えます（バスコースの見直しなど）。この話題については、仮称「理事長と語る会」を計画中です。保護者の皆さんと対面で情報交換できたらと考えています。

☆次回は「乳幼児保育のトレンドと、そのことによる子どもたちへの具体的なメリットについて」をお伝えします。お楽しみに！

